

志道軒清譜卷二



遠 18
1727
2



これこそ身を度しめしむるなりとハ動く毒子ありと
まなす
まなすよいつハまなすよいつヤヤモ
私母儀ハ兼く方丈様日課のゆかり子とハまなす
又重お傳浦くハ授下され病中も母より傳せら
ハ秋おやつか五降三従とやらハ罪ぬいめくも
何の方丈様のゆかり守てハいふれ成傳もとてあ
らやとれれくハ樂んくおつらゆとれむ

りくハ名代おどろみは作と酒がまらまするく
つたけり酒とくハつたけり酒とくハつたけり酒とく
ゆりりやらふふハ禁むとハまなすハつたけり酒とく
もあとおつらり和尙志久るくハつたけり酒とく
夫以色禁一層も我用令入二飲掛多訶
三掛多訶四畜多鏡五念房乃スイとハ
肉小不ハかくハ般多湯くハ夫小ゆつり

のちういふく^{一かういふく}兵衛の雲情^{とん}やぬ^{かちうよ}情^なの意^いを
海^{うみ}のい^いく^く赤^{あか}ら^らと^と海^{うみ}考^{かう}う^う海^{うみ}娘^{むすめ}と^とい^いし
おせ^おハ^ハ有^あ合^あ俗^{ぞく}さ^さも^もと^と決^{けつ}し^しり^りず^ずり^り判^{はん}別^{べつ}
海^{うみ}は^はこ^ころ^ろく^く終^{はつ}る^る傘^{かさ}一^{いっ}本^{ぽん}の^の何^{なに}し^しと^とか^かう^う傍^{はた}も
何^{なに}し^しと^との^の不^ふと^とけ^けの^の妙^{めう}智^ち観^{くわん}く^くツ^ツた^たる^る己^{おのれ}念^{ねん}守^{しゅ}
の^の度^た長^{ちやう}上^{じやう}人^{にん}の^のか^かき^きし^し二^に部^ぶ經^{けい}の^の中^{ちゆう}も^も坊^{ぼく}さ^さぬ
くと^と名^な中^{ちゆう}坊^{ぼく}様^{やう}考^{かう}ら^らひ^ひこ^こい^い女^{にょ}帝^{てい}と^とい^い海^{うみ}に^に

と^と又^{また}六^む藝^ぎ此^{こゝ}樂^{らく}歌^かあ^あく^くとい^いし^しも^もこ^こ分^{ぶん}厭^{えん}離^り去^さ
屋^やし^しも^も中^{ちゆう}小^{せう}ゆ^ゆう^うの^のむ^むと^とら^らや^やあ^あぐ^ぐし^し例^{れい}刻^{こく}ら^ら
海^{うみ}の^のい^いハ^ハむ^むら^らも^もあ^あま^まも^も智^ちあ^ある^るも^も忍^{にん}ぶ^ぶれ^れと^と
と^とい^いれ^れと^とい^い海^{うみ}ハ^ハ俗^{ぞく}む^むけ^けら^らあ^あく^くけ^け三^{さん}昧^{まい}小^{せう}を^を
入^いる^る半^{はん}て^てツ^ツた^たる^る又^{また}お^おね^ねし^し慾^{よく}の^の内^{ない}小^{せう}判^{はん}め^めき^き満^{まん}し
て^てハ^ハか^かの^の山^{さん}吹^ふき^きく^くツ^ツた^たる^る黄^{わう}金^{きん}不^ふ多^た交^{かう}不^ふ深^{しん}
で^であ^あら^らむ^むも^もこ^こ七^{しち}情^{じやう}の^の親^{しん}む^む己^{おのれ}小^{せう}古^こ金^{きん}の^の席^{せき}お^おと

日本^{ニッポン}人ハ金の威光^{イカウ}を先^{サキ}としく美^ミの通舟^{ツウフネ}を
 舁^ウりける世の中^{ヨノナカ}の事^{コト}は入^イりぬまりのあれ
 ば^ハ後^{ノチ}におりふと^トば^バら^ラの^ノま^マの^シま^シの^ホつ^ツけ
 て^テ不^フい^イく^クと^トい^イか^カせ^セる^ルあ^アり^リ世^セの^ノ頂^{タカ}く^ク事^{コト}成^ナり
 持^モ水^{ミヅ}不^フ掉^{テウ}さ^サに^ニ船^{フネ}既^{スデ}満^{マン}く^クい^イづ^ヅれ^レる^ルそ^ソは^ハ目^メの^ノく^クれ
 さ^サ力^{チカラ}を^ヲも^モい^イれ^レを^シく^ク茶^{チャ}屋^ヤの^ノわ^ワい^イ満^{マン}を^シり
 目^メ小^コ角^{カク}の^ノあ^アり^リの^ノ車^{クルマ}も^モ笑^{ウツ}つ^ツる^ルを^シり^リか^カ保^ホ

口^ク舌^{ゼツ}の中^ノ成^ナり^リも^モ和^ワら^ラけ^ケ蓋^{タケ}さ^サ地^チ出^デる^ルの^ノ使^シ者^{モノ}を^モも^モり
 有^アる^ル金^{カネ}を^ヲり^リけ^ケ合^アむ^ムう^ウ陸^{リク}奥^{ウチ}ふ^フり^リか^カけ^ケり^リと^ト形^{カタ}ん
 所^{トコロ}ある^ル小^コ山^{ヤマ}と^トお^オと^トけ^ケ小^コ間^マ浮^ウ檀^{タン}金^{カネ}あ^アれ^レハ^ハ音^ネ光^{クワウ}命^{メイ}
 よ^ヨう^ウけ^ケく^クめ^メり^リ尸^シ屋^ヤへ^ヘ初^{ハツ}堂^{ドウ}金^{カネ}を^ヲも^モせ^セハ^ハ任^ニ縁^{エン}法^{ホフ}
 雷^{ライ}家^カの^ノ強^{ツヨク}を^ヲも^モふ^フ刀^{タウ}才^{サイ}左^サ平^{ヘイ}の^ノ代^{ダイ}ハ^ハ能^ネく^クも^モ金^{カネ}を^ヲ
 う^ウあ^アり^リと^トく^ク鞍^{カン}と^ト夜^ヤ輪^{リン}の^ノ金^{カネ}を^ヲも^モ賞^{ショウ}寸^{スン}仕^シ送^{ソウ}り^リ有^ア人^{ニン}ハ
 成^ナる^ル金^{カネ}を^ヲも^モり^リも^モ有^アら^ラれ^レ質^{シツ}屋^ヤの^ノ代^{ダイ}ハ^ハ且^ニ形^{カタ}流^{リウ}を^ヲ換^カへ^ヘ



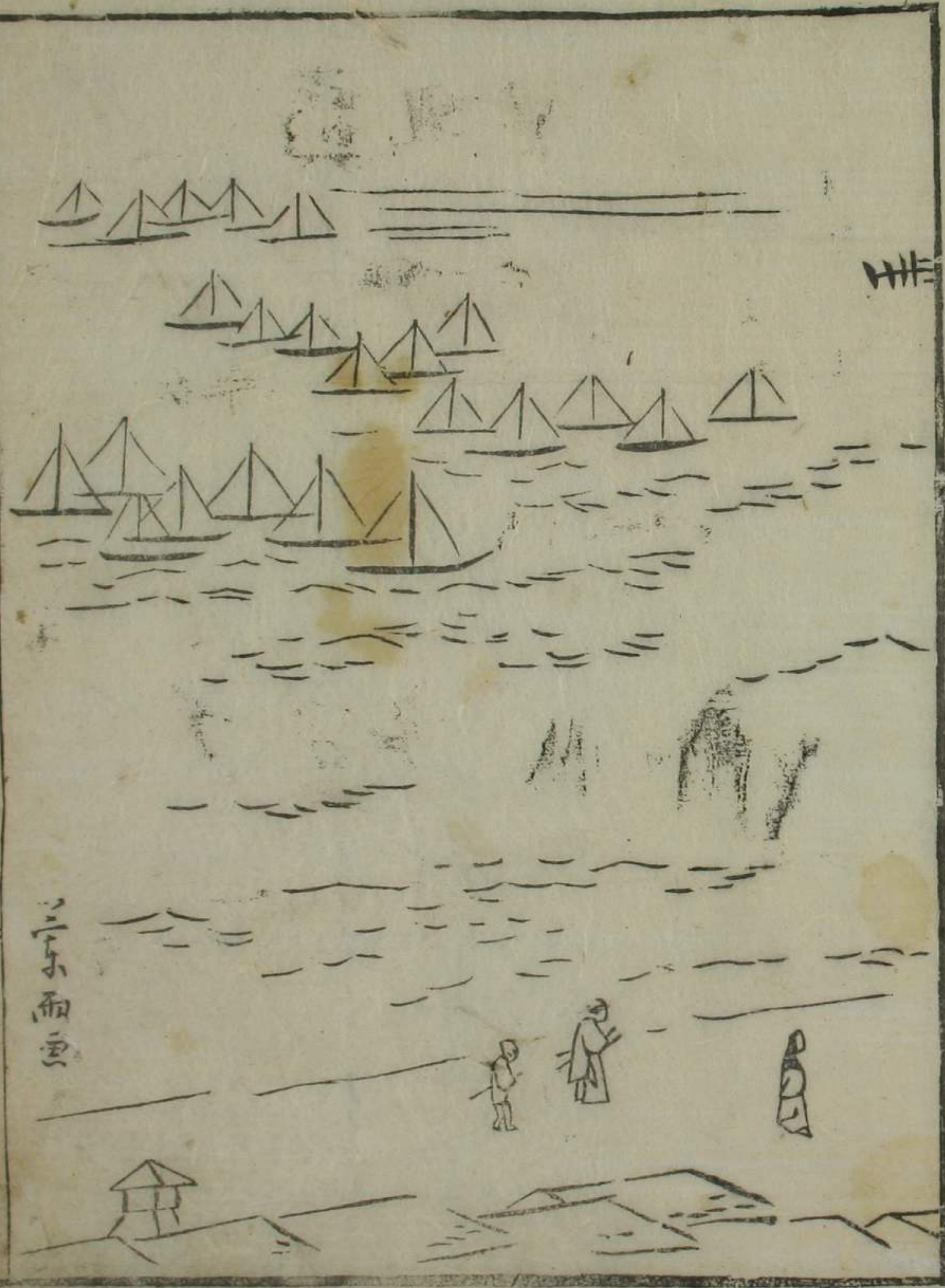
子不雨惠

の九年九面癩めんれいもひ一ひ物ものではむむぐぐるる如ごとくきしし新あらた苗なへ
上人じゆんじんのの一ひと向むか事こと念ねんももけけ他た力りきををたたのの後あとににハハ莊しやう嚴げん
ううめめでで流ながささああととれれああままハハ周しゆう利りもも作つくりりしし
江え崎さきもも美み愛あいととれれおおけけれれハハ小こ町まちももたたささめめくく
小こ孔こう明めいもも阿あ房ぼうよよええゆゆととれれよよううののててハハ種たね持もち
のの一ひと事こともも流ながをを判はんとと竹たけ井いととめめととれれををしし
ゆゆととききハハ刀やいば指さしのの二ふた妻つまどどくくもも高たか禪ぜんてて破やぶ

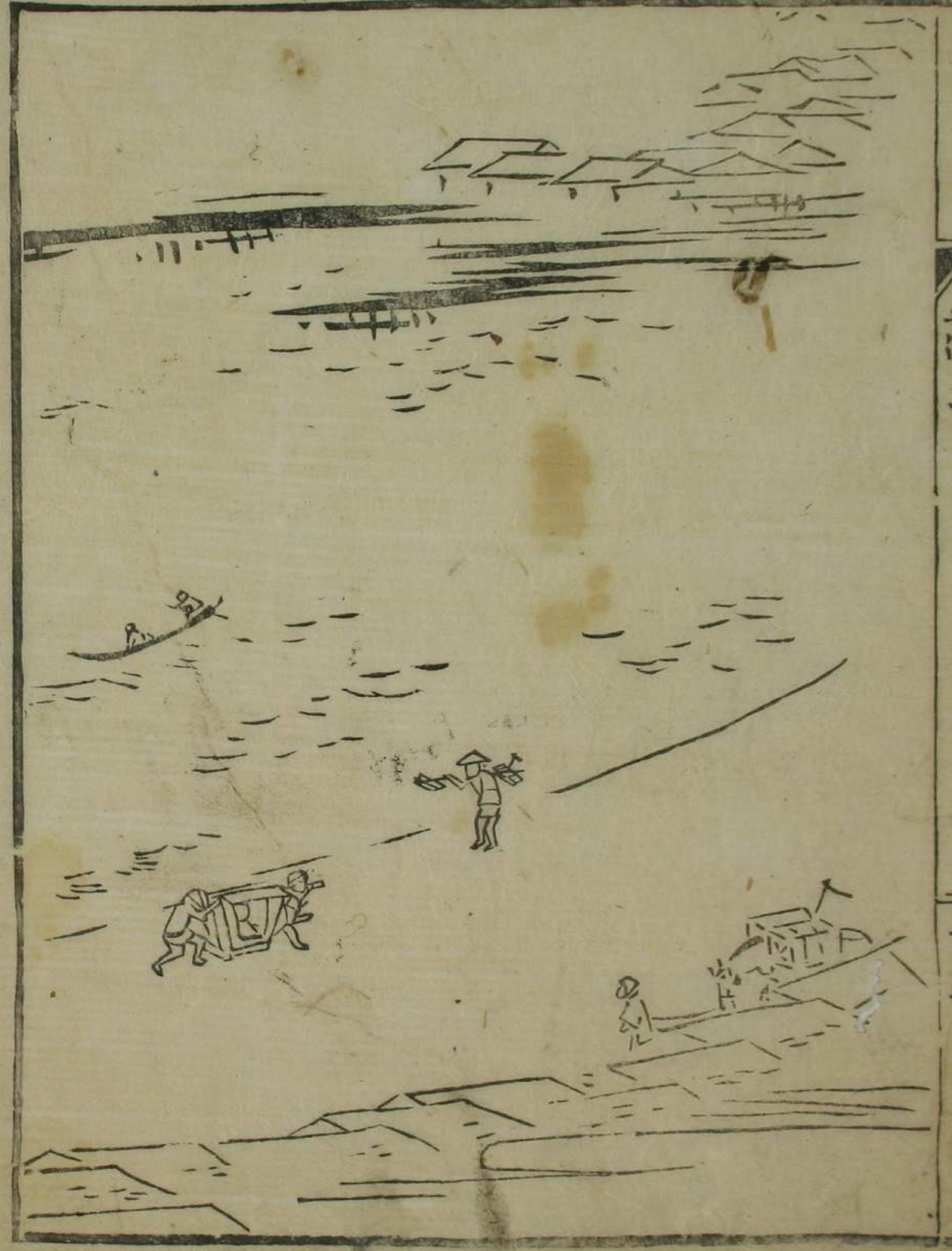
蘇そ戸とととららのの一ひと夜よ換か換か一ひと寸すん乞き食じき一ひとハハ百ひゃく葉えふ
多おほ二ふた女によハハ小こ一ひと乃なほ使まか者しやハハ一ひと擲うてまノノ金かね乞き膽たん
ゆゆんんとと安やす房ぼうききいいをを持もちととせせ一ひとももいいまま乃なほ
使まか者しやハハ一ひとれれととめめくくゆゆるるハハ海うみ屋や也や由よし
ままりりてて海うみ債さい也やチチママアアフフウウホホ一ひとああるるハハ徳とく屋や
小こ右みぎ亦またををゆゆととへへとと流ながままるる取とハハ利り足あ也や隨したが
流なが一ひと小こ寸すん古こ語ご小こいいととくくかかりり時ときのの使まか者しや

此の時の闇十八面大玉の面も引く程と見え
 せねハ猫のこしく久米のこお内うかすもも
 りすのくハ海氣出とく商人の生死ハ
 去る人々を引ひねハせるがす海江女房
 の羨魚ハともわね物系を以て羨とん院蔵
 白の眼も羨魚の人ホつらひにけ蘇精
 う張撲の舟も益言此可月とんこあり

よけく人々あにぞり〜ゆと先んやと口ハ
 といか〜んの中でハこれハおせられとと上
 びのにおけておひんう〜上ハ接接地と
 れハ扱ハ江んめ下ん〜中〜いますま〜介
 枝葉も〜り〜ろの木のすね〜るが
 む〜の強迫面使の人ハと此利口もの
 び〜法僧と切徳の人ハ〜の〜ハけ



三
東
而
遠



廿
海
二

絶氣をたこくもやみゆふハ依羅尼其ハ
 事感りのりかろく愛ふべき價のふハ穢鬼
 有畜畜一と勿明て大のろくハ初まろくせらふ
 ハ畜生尼を眼おのふハ地獄と成まふ
 すとハこのことあり地獄と成えいハ地乃
 トよあるところろ坊ハ大きを乃遠むよ
 つと此の底ふれりくハ後かされ井戸堀採

ハ毎度閻王の帝頭へ有りあり音某代を
 抄らるるでゆざり満ちてさうてきかい
 地獄を堂人世界はまる取ハ合あり是ハ
 つまこる麻斬ウ一ツニツツ斬り満ちつまら
 一かくもへてかろくやあや

和音 報者 尚也 滑替 法 義 志 二 紙

